

プロメテウス

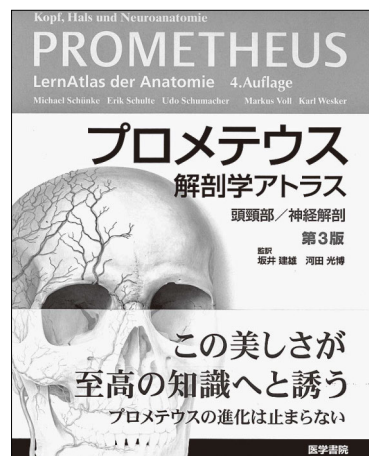
解剖学アトラス頭頸部／神経解剖 第3版

坂井建雄，河田光博【監訳】

評者

篠田 晃

山口大学大学院医学系研究科神経解剖学／教授



『プロメテウス解剖学アトラス 第3巻頭頸部／神経解剖』に，待望の日本語第3版（原著ドイツ語第4版）が世に出ることとなった。清楚で美しい図譜が定評の「プロメテウス」は，生理機能や病態・臨床的意義の理解までもめざした詳細な解剖学アトラスである。

今回の最新版では，特に神経解剖と歯科口腔領域で目を見張る拡充と改訂がなされている。通常，解剖学シリーズの神経解剖領域は，その構造と機能の複雑さが故に中途半端感が残り，他の神経解剖学アトラスや専門書に道を譲ることになる。今回の改訂では最新の情報が加わり，全体の構成が再編された。特に序論が充実し，全体が見わたせるようになり，複雑な中枢神経系の構造の学習への心構えができる。中枢神経系の用語集と要約の大幅な増ページもうれしい。初学者・学生諸君のみならず教師や研究者にとっても知識の整理として大変助かる。本書の神経解剖の章自体で神経解剖学の専門書・専門図譜のレベルに達している。また医学にとって盲点となりがちな口腔領域の充実した増ページも見逃せない。歯の発生と歯科診療の項が新たに追加され，X線写真と局所麻酔刺入点の写真も加わった。歯科医をめざす学生

はもちろん，医学生や若手医師にとっても臨床的理解が助けられ，口腔領域の解剖が一層魅力的なものとなったであろう。神経解剖が対象とするのは中枢神経だけではない。脳を理解しようと思えば，末梢神経や感覚器や効果器，そしてそれらとの関係について学ばなければならない。頭頸部は特に顕在意識化された脳の高次機能の入出力の要である。ここを構成する認知や情動や能動について深い理解をめざすならば，この領域の詳細な有機的関係の理解が鍵を握っている。これらが一体化した本書は21世紀の脳科学・神経科学の礎を担っているといっても過言ではない。

現実に出会う自然現象には無数の情報が含まれ本来複雑である。見えていても見えないものばかりである。科学的解析プロセスはその描写から始まるが，そのままでは真実の不完全な鋳型である。描写から説明文のついた図譜，シェーマ（図式）への過程で整理がなされ理解に至る。しかし同時に大切な真実が削ぎ落とされている事を忘れてはならない。そういう意味で，われわれは常に御遺体や体そのものに立ち返る必要がある。図譜というものは，真の人体の描写とシェーマを結び付ける位置付けにある。描写に近い図譜も

あれば，シェーマに近い図譜もある。「プロメテウス」の美しさは，描写の側面とシェーマの側面を持ちあわせ，両者を上手くつなぐ整合美にあると言える。特に本書の神経解剖は，精緻な図譜とシェーマの絶妙な組み合わせにより，構造と機能が一体のものであるとわかる。これが解剖学図譜を芸術の域に高め，読者を惹きつけて止まぬゆえんである。翻訳版はともするとその過程で原著のエッセンスを失う危惧がある。英訳を介するとなおさらである。今回はドイツ語原著から直接の翻訳であり，訳者に神経解剖学や歯科解剖学の錚々たる面々が参加している。日本語の説明文は，損なうどころかさらに理解を助ける言葉が散りばめられている。

プロメテウスはゼウスの反対を押し切り，哀れで愚かなる人類に人体が理解できるよう，未来を照らす神の灯火を与えてくれた。解剖学図譜の至高の大傑作である。

A4 変型判・頁 610

2019 年 3 月

定価：本体 11,500 円＋税

[ISBN978-4-260-03643-6]

医学書院刊